

—牧師室から—

元旦礼拝で使徒パウロの記したローマ書、12章1節—2節から短く説教した。パウロは11章までに人間の罪がいかに大きいか、その罪がイエス・キリストの十字架によってどのように赦されたかを言葉を尽くして語ってきた。その救いに与かったクリスチャンの神への賛美と感謝の生活について筆を進めている。信仰による「勧め」が12章から始まる。

パウロはまず「自分の体を神にいけにえとして献げなさい。これこそ、あなたがたのなすべき礼拝です。」と勧めている。体を蔑み靈魂のみを尊ぶ退廃的なローマ社会に向かって、パウロは体を神に献げよと語っている。体は蔑むものではなく神に救っていただいた大切なものであるからである。この勧めは礼拝への勧めである。礼拝は主の日の礼拝だけでなく、神を天にある神とし人間を地にある人間とする両者の関係を正しく回復することである。正月に上げるタコは糸を握られている時に上が

る。クリスチャンは神の手に握られている。体を献げる礼拝を通して神と人間との関係を確認する。それが礼拝の意味である。私たちはこの礼拝を生き方の根幹にする時、自分自身を発見でき、又、神が愛してくださったこの世と責任的な関わりを持つようになる。

そして、パウロは「心を新たにして自分を変えていただき」と心の新生を勧めている。私たちの心はまず変わらない。しかし、パウロは自分の努力で変わるというのではなく、神によって「変えていただき」と言っている。これはパウロの実体験である。復活したイエス・キリストに出合った時、自分中心の信仰と生活の全てが叩きのめされ新たにさせられた。信仰は遭遇する苦難も、恥辱も、自己嫌悪も良しとする。なぜなら、その中で神の新生への恵みが働くからである。新たにさせられた心は「神の御心を」わきまえるようになる」と語っている。体を献げ、心を新たにさせてくださいと祈って、年の始めの礼拝を守った。

週 報

1990年1月7日 降誕節第2主日

新年礼拝

巻 10

41号

1989年度教会主題

「神の言葉に従う」

聖句 主はアブラムに言われた。「あなたは生まれ故郷、父の家を離れて、わたしが示す地に行きなさい。」……アブラムは主の言葉に従って旅立った。

創世記12章1節、4節a

- 目標
1. 生活を整えて礼拝、諸集会を守る。
 2. 新会堂の建築計画を完成する。

日本キリスト教団 **横浜港南台教会**

会堂 〒233 横浜市港南区港南台 7丁目-8-29

電話 045-833-5323

振替 横浜 9-13394

牧師宅 〒235 横浜市磯子区洋光台 5丁目-6-3-304

電話 045-833-6616

牧師 秋 吉 隆 雄